

ふくしま県人会だより

第47号
令和5年1月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会長

新年あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 近藤 康弘



会員の皆様、新しい年が素晴らしい一年でありますよう、御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。また、日頃は連合会行事に御支援と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の行事としては、六年ぶりと

なる第五回全国うつくしま県人会交流会が、関西福島県人会の主催で、

十月九日(日)に大阪市にて開催され、全国から四十二名の代表が集つ

たとのことです。北海道からも田中四郎連合会顧問をはじめ、札幌県人会の稲村宗彦会長、苫小牧県人会の渡辺健治会長、といった連合会役員のみならず、札幌県人会の風間昶顧問と阿紀子婦人部長の御夫婦、県事務所から松浦晃所長、内海優美子主査と、合計七名が参加され、今迄にない盛り上がりで活躍されたとの報告を受け、大変嬉しく、また御苦労様でしたと感謝申し上げます。

昨年の後半に母県では知事選がございました。十月三十日の投票結果は内堀知事が県民の大多数の賛同の票を獲得し、再選を果たされ、

第三期の県政を担うことになりました。

した。内堀知事におかれましては、誠に御めでとうございます。

昨年十一月頃より新型コロナウイルスへの感染者が増加の傾向にあり、予断を許さない状況が続いています。寒くなると換気が充分に取れなくなりますので、小まめに窓を開けて空気の入換えをしましょう。また、幼少年の感染者の急増に伴い、学級閉鎖が発生しておりますが、コロナワクチンの接種を積極的に進めていただくとともに、一日も早い終息を願っています。

さて、令和五年五月二十七日から二十八日に、第五十一回福島県人会北海道連合会総会を、網走市呼人のホテル網走湖荘で開催する旨、令和四年十二月の連合会役員会において、全員に賛同していただき決定しました。北海道事務所と美幌町・別海町の両県人会が只今準備を進めています。四年ぶりに全道の皆様が集い、ふるさとを同じくする方々の心よりどこころとして、会員相互の交流を深めて行けるよう、一人でも多くの御参加をお待ちしております。併せて、内堀雅雄知事には、

ぜひとも御出席いただけますように祈っております。

知事の御健康と御多幸を心からお祈りいたすとともに、全道の会員の皆様を楽しい新年を迎えられますことを念じて、挨拶とさせていただきます。

福島県知事

新年あいさつ

「ふくしまプライドで

逆境を乗り越え、

ふくしまを『希望の地』へ」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

福島県人会北海道連合会におかれましては、昭和四十八年の発足

以来、ふるさとを同じくする方々の

心によりどころとして、会員相互の交流を深められておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、心から敬意を表します。また、会員の皆さんにおかれましては、本県に格別のお力添えを賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、私は、去る十月の知事選挙におきまして、県民の皆様の御支持を頂き、引き続き、県政を担わせていただくこととなりました。皆様からの御期待をしつかりと胸に刻み、福島県未来を切り拓くため、全力で挑戦を続けてまいります。

福島県は、未曾有の複合災害からの復興はもとより、急激な人口減少、度重なる自然災害からの復旧、新型コロナウイルスの感染拡大防止、さらには原油価格・物価高騰への対応など、幾多の困難な課題を抱えております。

そうした中で、挑戦を絶えず「シンカ（進化・深化・新化）」させながら、様々な逆境を乗り越えることにより、「ふくしまプライド。」を更に光り輝かせていくことが重要

と考えております。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、復興の状況に応じた被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還環境の整備などに取り組むとともに、廃炉と汚染水・処理水対策や、風評の払拭と風化の防止、移住・定住の促進など、様々な課題に全庁一丸となつて取り組んでまいります。

次に、人口減少対策につきましましては、結婚から子育てまでの切れ目のない支援や、「福島ならではの教育を推進していくほか、食・運動・社会参加を柱とする健康づくりに力を入れ、全国に誇れる健康長寿県を目指してまいります。

また、農林水産業や商工業、観光業など、既存産業の振興はもとより、新産業の創出・集積等を通じて、若者の県内定着・還流や魅力ある雇用の場づくりなどに取り組んでまいります。

さらに、新型感染症につきましましては、引き続き、県民の皆様に対し感染防止対策の徹底をお願いするとともに、国や市町村、関係団体等と

緊密に連携しながら、感染拡大の防止と確実な医療の提供に取り組んでまいります。加えて、物価高騰等に対しては、需要喚起策や金融支援などにより、生活の安定と経済の維持・再生を図ってまいります。

これらの取組を含め、県の総合計画に掲げた目標を一つ一つ着実に実現させながら、福島県の定義を「被災の地」から「希望の地」、さらには「復興の地」へと変えるべく、全力で福島県未来を切り拓いてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

会員通信

札幌での二十五年

札幌福島県人会

監事 関 幸俊

山一証券(株)勤務二十年目に、福島県いわき支店に転勤になりました。ただその二ヶ月後に自主廃業が

決まり、大学の親しい仲間とスパリゾートハワイアンズで会う約束も、キャンセルせざるを得ませんでした。顧客への資産返還の作業をしながら再就職先を探しましたが、東京希望で探したため、年齢もあり見つけられない日々が続きました。そんな時、メルリンチ札幌支店ならと声がかかり、札幌は初めての地で悩みましたが、妻の出身が旭川というところもあり、心機一転札幌行きを決めました。当時、北海道は拓銀の破綻もあり、開拓営業は厳しいものでした。

その中で、福島県人会は心の支えとなりました。特に記憶に残る思い出は、二〇〇三年に別海町・浜中町の県人会主催の連合会総会で「川湯観光ホテル」へ行った時のことです。当時は菅野会長・磯部幹事長他、十名程のバスツアーでしたが、参加者が少なく、高速を使わずに七時間程の長旅になりました。翌日は運転手さんの配慮で摩周湖をみたり、層雲峡も回っていただき、北海道一周旅行をした気分でした。おかげで翌日からの仕事は二日酔い状態でした

が、今ではいい思い出になりました。

私の実家は郡山ですが、母が四年前に亡くなり、母の三回忌・父の三十三回忌も無事済ますことができました。残された実家も三年前の台風十九号で全壊し、私も手伝いに行きました。弟はもうここには住めないと、今は賃貸で暮らしています。仙台空港から帰る途中、山一時代の後輩が経営している会社に寄りましたが、仙台駅近くの十七階建てのビルだったので、東日本大震災では避難所に使われたと聞かされ、改めて東日本大震災の大きさを実感しました。

令和四年度 観楓会開催

旭川福島県人会

幹事長 圓谷 清

令和四年十一月三日（木・祝）旭川アートホテルにて、旭川福島県人会観楓会を開催しました。

三年ぶりの観楓会であり、参加者一同、久しぶりの行事を大いに楽しむことができました。例年（コロナ前）であれば、温泉入浴付き及び送迎バスに揺られて、晩秋から初冬的美瑛の丘々十勝岳連峰の山々を眺めながら、一日のんびりの観楓会でしたが、現況から、コロナウイルス感染対策を十分に行い、ホテルでの開催となりました。

会の初めに、令和四年二月に御逝去されました元顧問、故金子 民男様に黙祷を捧げ、長年福島県人会の為に御尽力されましたことに感謝の気持ちを捧げました。

県事務所の松浦所長を迎え、総勢十一名の参加でしたが、あつという間の時間でした。松浦所長から、県の現況や全国の福島県人会・北海道

連合会の現況等のお話と、このコロナ感染状況の中での開催に対して、ねぎらいのお言葉を頂きまして、開催して良かったと思えました。

次に新会員挨拶となり、條元彦さんに挨拶していただきました。條さんは令和二年入会ですが、今回はコロナ後初行事での対面となり、三年目にしてやっと挨拶ができて良かったです。

乾杯は、女性部長の高木厚子さんにお願いで、三年ぶりの行事に乾杯していただきました。宴会に入つてからは、コロナウイルス感染対策のため、マスク着脱をこまめに行い、食事の際以外はマスク着用を徹底した次第ですので、後に体調不良となる人は無かったです。

以前のカラオケタイムの代わりに、DVD視聴（全国うつくしま県人会交流会に向けたビデオレター）↓作曲家 古関裕而作曲集の鑑賞↓ゲーム（景品は今年秋収穫の農産品）主体で、土付き大根もありましたよと続きあつという間でした。

の言葉に会計部長の山口正幸さんから、お互いに健康に注意して、

次にまた元気に会いましょうと、一本締めをしていただきました。

これからの県人会行事については、コロナ前のようにいきませんが、感染対策を十分とり、しばらくの間マスク着用の上、地域社会の感染状況を見ながら計画開催してまいります。近くは、令和五年二月の旭川福島県人会定期総会と五月の北海道連合会総会となります。再会・開催を楽しみにしましょう。



【令和四年度観楓会にて】

田村高校クラス会の絆

旭川福島県人会

会計部長 山口 正幸

私は、田村市船引町出身で、高校は駅伝などで有名な田村高校です。卒業後は自衛隊に入隊をし、全国を転々として、定年退職後は、終の棲家を旭川と決め暮らしております。

私には、故郷に思いを馳せる会が二つあり、旭川福島県人会の他、「田高三年四組の会」というものがあります。

何故か昭和四十九年卒の三年四組は仲が良く、三十四名中八名が亡くなりましたが、何かあれば、京都、静岡、神奈川、長野、千葉、東京から、地元福島に集まり、懇親を深め合っております。

コロナ前は、亡くなった仲間の追悼に、三春町「馬場の湯」に集まり、還暦時には、磐梯熱海温泉「華の湯」にて盛大にお祝いなどをしました。現在は、コロナの影響で中々集まる事が出来ませんが、「三年四組の会グループライン」に十六名が参加し、スマホで近況を報告し合っております。

孫の成長、健康管理、家庭菜園な

どの情報交換や昔話に花を咲かせるとともに、地元福島にいる仲間からは、福島情報が伝わります。

六十七才になっても、クラス会での福島の絆が繋がっていることに感謝です。

最後に、一日も早いコロナの終息と、福島県人会北海道連合会の皆様にお会いできることを心からお祈りいたします。



【令和四年に百周年を迎えた田村高校】

紅葉と蝦夷リス

旭川福島県人会

会員 條 元彦

十月下旬、私は陽気に誘われてウオーキングに出ました。宮前公園から神楽橋を渡り、上川神社の階段を左手に見ながら、「緑のセンター」前の広場に着きました。少し休もうと思ったのですが、園路の右奥に赤や黄色の紅葉林が目にとまりました。近づいて行くと、もみじや楓が太陽を浴びて鮮やかに輝いているではないですか。特に赤もみじは深紅に輝き一段と美しさを誇示している様に見え、自然とカメラのシャッターを押していました。

園路を少し横道に入ると銀杏並木があり、この銀杏も黄色に染まり、空の青さと相まって派手な衣装の銀杏並木となっていました。

その近くに松林があったので目を向けると、何かしら「ちよろちよろ」と動く物が目に留まりました。近づいて良く見ると、「蝦夷リス」と解りました。蝦夷リスは木々や地面を行ったり来たり、少し止まっては顔を上げて周りを見つめ、又「ちよろちよろ」と動き回っています。周囲を見ると人が数人居て、それぞ

れのところから望遠レンズを構えたり、デジカメを構えたり、まるで蝦夷リスの可愛いしぐさをカメラに収めようと必死の様子でした。でも蝦夷リスは周りを気にせず、「私が主役よ」と言わんばかりにカメラマンの周囲を行ったり来たり、又は木に登ったり降りたりと、落着きを見せない厄介なモデルの様で、他にいろいろともせず、せっせと冬支度かなと見ていました。

神楽岡公園は、上川離宮予定地であった神楽岡の御用林を、大正三年に帝室林野局から借用して公園として開園したのが始まりです。大正十二年に公園用地として払い下げを受け、大正十五年から園路、広場等の造成が行われ、現在では面積約四十ヘクタールで、「都市緑化植物園区域」や「自然生体観察公園区域」、そして「一般公園区域」の三つのゾーンに区分されております。

丘陵地である神楽岡公園は、春は花見、夏はキャンプ・バーベキュー、秋は観楓会、冬は歩くスキーと、年間を通して自然とのふれあい等の行事が、各区域で行われます。誰も

が自由に楽しめる公園でありますので、是非足を運んでみては如何でしょうか。



【神楽岡公園にて】

素晴らしい道東地区で

お待ちしております

美幌町福島県人会

副会長 前崎 孝子

道東の山々の紅葉も終わり、冬の訪れが近づいてきたような感じの中、変わらないのはコロナだけではなく、皆さんの方はお変わりなくお過ごしですか。

さて、今年は令和五年五月に予定

されています連合会総会も三年越しに開催出来ますよう、県北海道事務所の協力のもと、別海町・美幌町の両県人会が担当で頑張っておりますが、またコロナで中止とならないよう願うばかりです。会員の皆様には十分健康に留意されまして、本年は是非明るい年になることを願い、久し振りに皆さんと笑顔でお会い出来ますことを楽しみに期待しながら、道東地区会員一同でお待ちしております。



【吉田幹事の御息女と前崎副会長】

第五十一回福島県人会

北海道連合会総会案内

美幌町福島県人会

事務局長 大竹 啓

オホーツク地方も、五月中旬頃には平地山々は桜・こぶしの花々が満開、また牧場では牛の放牧、畑を見ればタマネギ・ビート（砂糖大根）の植え付け、空は青空の模様です。

遠くには芝桜公園が見えます。鮮やかなピンク色に染まる小高い丘の斜面が、「東藻琴芝桜公園」で、十万平方米メートルに及ぶ広大な斜面がビロードの絨毯を敷き詰めたように、美しく彩られます。公園の頂上付近には山津見神社があり、その由来などは次のとおりです。

鎮座地 網走郡東藻琴村（現…大空町東藻琴）字末広三九四番地

本山 福島県相馬郡飯館村佐須字虎捕

御創立 永承六年（約九百年前）

本社は大正二年、福島県相馬郡の周辺からこの地に入植した和泉

一郎・大本久次郎・室原重成・山田徳四郎の各氏により御神体を拝受した山の神であります。農業・商売繁盛の神、交通安全の神、安産の神、子宝に恵まれる神、旅の安全の守り神、海の幸の神、などとして、神殿が祀られています。

続いて、ホテル網走湖荘近郊の観光地を案内しましょう。ホテルから二キロ以内には、まず「網走監獄博物館」があり、明治時代から実際に網走刑務所で使用されてきた建物を保存し公開しています。次に「北海道立北方民族博物館」では、アイヌだけではなく、世界中の北方民族について紹介しています。また「オホーツク流氷館」には、流水やクリオネの展示があります。そして「能取岬」。岬の先端にある灯台は白・黒模様という風変わりな色彩です。六十キロ先には斜里町の「天に続く道」があり、どこまでも続く知床の大自然、絶景の中をひたすら真っすぐ貫いております。美幌峠には、「熊笹ソフト」「元祖あげいも」等のグルメが沢山ございます。一度立ち寄ってはいかがですか。

五月の再会を待つております。



【東藻琴芝桜公園の山津見神社】

顔合わせもできず、只々、時が過ぎ去りました。

しかし、状況から見て無理かとも感じましたが、会員相互の交流と意識の確認がどうしても必要と判断したため、令和四年四月に、第五十五回定期総会が「絆」と題して開催され、意思確認と年間予算計画が決定されました。

ご承知のとおり、第五十三回、五十四回と、二年間は、コロナ感染拡大の影響があり、書面開催にて実施されましたが、三年も続けて書面開催には出来ないと思い、総会だけでも開催することとしました。結果は、僅かばかりの会員といえども、全員の参加は無理でした。

それが事務局としての悩みの一つです。会費は戴いていても、活動や会員交流はまったく出来ず、年が明けたら、時期が来たら、何かを試みたいと思うだけの状況。

何処も同じだと思えますが、コロナにかまけているうちに、県人会は年齢だけが嵩み、体がついて来ない、八十歳の下り坂で会員は増えない、先が見えない心配がそこにありま

す。

継続するために、どうすれば良いか？と考え、お便り発行を試みてから二十五号まで続けました。

この連合会会報(四十七号)の原稿が届くころ、当県人会便り二十六号(新年号)が発行されることを期待しながら、別海町県人会の現況を皆様にもご理解して戴き、切ない立場でご報告させて戴きます。

三年前の若さに戻れないことを想いながら、連合会会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

福島県人会に入会して

苫小牧福島県人会

会員 中村 悦子

少しずつ寒さが冬に近づき、福島の「こごゆ」の味を思い出しながら、筆を走らせています。

福島県人会に入会するきっかけは、母からの誘いです。故郷の福島のために楽しく活動させていただいた母ですが、八十歳も過ぎ、先の事なども考えて、私達も一緒に入会し、

一緒に参加できたら嬉しいと。苫小牧に越してきて、何かのボランティアやサークルに入り、人の輪の内に入りたいと、色々探している所でした。ほんの少しでも親孝行になればと、主人と入会しました。

初めての集まりは、港まつりでの桃売りでした。色んな緊張を抱えながら、二人で参加させていただきました。その日の二人の感想は、「みなさんいい方々しかいなくて、びっくりした!」、「頭も身体も若々しくすごい。」、「笑顔が素敵で、気配りが素晴らしい!」、「いい方々ばかりなので、楽しく疲れなかった」と話は尽きる事なく、誘ってくれた母に心から感謝しました。また、福島県の桃を楽しみにして下さる方が、こんなにいらっしやる事も大変嬉しかったです。来年も美味しい桃が実り、港まつりが開催できる事を願っています。

魅力あふれる県人会の皆様が、健康で来年も素晴らしい一年になります様、お祈り申し上げます。

(令和四年十二月記)

どうなる県人会 頑張ろう…

別海町福島県人会

事務局長 大内 照雄

連合会の皆様、お変わりありませんか。

心配していたコロナ感染が拡大し、ついに第八波に入りました。

我が身を守る為に自粛生活を余儀なくされ、うつらない、うつさない、マスク姿の生活、もう三年目に入りました。

当県人会もその後、何一つ交流会



【とまこまい港まつりにて】

新会員の紹介

函館福島県人会

橘高 由香 様(出身 いわき市)

「東日本大震災を機に函館に来ました。私の両親も夫の両親も現在いわき市に住んでいます。二〇一一年十月に函館に来た当時、函館福島県人会に一度、呼んでいただいたことがあります。十年が経過し、再びご縁が出来たことに感謝しています。」

(入会日 二〇二二年十一月一日)

福島県からのお知らせ

第五回全国うつくしま県人会

交流会が開催されました。

令和四年十月九日(日)に、大阪府大阪市のホテルグランヴィア大阪にて、第五回全国うつくしま県人会交流会が、関西福島県人会の主催により開催されました。

当連合会からは、連合会役員の皆様をはじめ五名の県人会の方々に御参加いただき、事務局を含めて計七名での参加となりました。ありがとうございました。

また、御参加いただいた県人会の方々のうち、二名の方から、御報告・御感想等をいただいておりますので、次に掲載させていただきます。

苫小牧福島県人会会長

(兼連合会理事)

渡辺 健治

第四回全国うつくしま県人会交流会が北海道の支笏湖温泉にて開

催されてから六年。本来ならば四年ごとに開催される交流会も、新型コロナウイルスの蔓延による影響で開催が遅れておりましたが、今年度再開となった交流会に参加してまいりました。

午後四時に意見交換会が開始され、意見交換テーマは「ふくしまを共に創り、つなぐために」でした。初めに「福島県総合計画二〇二二―二〇三〇」についての報告があり、引き続き、参加した九県会の活動状況について、北海道から沖縄の順にて発表とのことでした。福島県人会北海道連合会の稲村宗彦監事(札幌福島県人会会長)から、連合会は昭和四十八年五月七日設立、七県会の会員数二百十二名で運営されているなどの概要説明があり、またそれぞれの道内県人会の活動状況報告がなされました。

また、道内県人会を代表して、私から苫小牧県人会の紹介や活動のうち、主に三点について報告しました。一点目は、市制五十周年となる平成十年七月に、東北六県人会連合会が発足したこと。二点目は、同年

八月に港まつりの協賛で会津白虎隊を披露し、ミス会津が市長表敬訪問にて福島県の「もも」を贈呈したことで。三点目は、とまこまい港まつりで「もも」を販売しており、平成十一年八月から現在まで行われていること。これらを説明させていただきました。併せて会員数の減少、新規入会者の減少傾向が今後の課題であるとして提起させていただきました。

続いて北海道以外の八県会から報告があり、共通課題として会員減少・高齢化や会費未納者への対策などが話し合われました。意見交換会終了後の懇親会は、関西の会員によるアトラクションなどで、コロナ禍の重苦しい世相を跳ね返す温かいおもてなしをいただきました。終わりに、関西福島県人会会員の皆様には、交流会の運営につきまして、心より感謝申し上げます。なお、次回の四年後は、東京福島県人会が担当で開催されることが決定しました。

札幌福島県人会顧問

風間 昶

令和四年十月九日、コロナにより六年ぶりに開かれた大阪での全国うつくしま県人会交流会に、北海道連合会の田中顧問、札幌の稲村会長、苫小牧の渡辺会長、札幌から夫婦で風間の五名が参加いたしました。

関西福島県人会の田崎会長の挨拶からスタートし、鈴木副知事から御祝辞をいただいた後、各県人会から活動報告・今後の展望（北海道、東京、東海、広島、関西、福山、福岡、鹿児島、沖縄の順）が話されました。

次に懇親交流会が開かれ、美味しい福島の地酒を頂きながらの県人仲間との触れ合い・歓談はあつという間に過ぎ、関西福島県人会の渡辺会計監査による「南京玉すだれ」の披露で盛り上がりました。最後は、次回開催予定（令和八年、二〇二六年）地である東京福島県人会の大越理事長より挨拶を頂き、お開きとなりました。
男の仕業は、女（め）の力なり。

との言葉がありますが、会長を支えた三人の女性副会長による開会・司会・締めは見事でした！



【第五回全国うつくしま県人会交流会 集合写真】

**茨城・福島PR展 in 苫小牧
を開催しました。**

令和四年十二月三日（土）～四日（日）に、MEGAドン・キホーテ 苫小牧店にて、「茨城・福島PR展 in 苫小牧」を開催しました。
あんぽ柿や薄皮饅頭、ままだおるなどの県産品の販売や、人気酒造の出展による県産酒の販売を行いました。

した。

苫小牧福島県人会の皆様をはじめ、両日ともに多くの方に御来場いただきました。御協力いただきました。ありがとうございました。



【販売ブースの様子】

あんぽ柿のPRを行っています。

今年もあんぽ柿の季節になりました。当事務所では、一月に札幌市内にて二つのPRイベントを予定しております。

一つ目は、令和五年一月十九日（木）から二十日（金）までの二日間、セイコーマート北海道庁店（北海道庁地下一階）にて、福島県産の

あんぽ柿を販売します（蜂屋柿・一個売り）。

二つ目は、令和五年一月二十一日（土）に、サッポロフアクトリーのアトリウムにて、あんぽ柿、県産日本酒などの販売や、立命館慶祥中学校・高等学校の生徒さんたちによる風評払拭のためのPRなどを含むイベントを開催します。

お近くの方や、近くまでいらつしやる機会のある方は、ぜひお立ち寄りください。

併せて、お近くのスーパーなどで、福島県産のあんぽ柿を見かけた際には、ぜひ手に取っていただき、ふくしまの冬の味覚をご堪能ください。



【ふくしま生まれのあんぽ柿】